

グローバル教養学部

I 2019年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2019年度大学評価結果総評】(参考)

グローバル教養学部の取り組みは、英語によるイマージョン教育を基礎としつつ、リベラルアーツ教育・学際教育と専門教育を両立させることで、「高い意識をもってグローバル社会に貢献し、そこで成功するための能力・知識・倫理観を備えた学生」を育成することを目指している。このような教育目標に向けて、本学部は着実な教育改革とその実施運営を行ってきたといえ、特筆に値する。とりわけ、学部規模の拡大と受け入れ学生の質の変化(中等教育の変容)といった現象に対しても、「真の国際人」「世界基準の英語力を身につける」ために徹底した少人数教育を行うなど、慎重ながらきめ細やかに対応策を検討してきたことは評価できる。

ただし、そのような充実した教育制度改革に向けた活動が増える一方で、教員の研究活動の確保が課題の一つとなっている。研究者としての教員ができるだけ最先端の研究環境に身を置くことは、上記の教育目標を実現するためにも不可欠の要素であると考えられる。長期的な一つの課題としては、そのような研究・教育・公務の三要素に、適切なバランスで取り組めるような体制作りが望まれる。

【2019年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

教員の研究活動の確保について、公務時間の短縮に向けて、学部運営の効率を上げるための細かい対策を取った。教授会や学部内委員会の回数を可能な限り減らし、また報告資料などを事前にメールやオンラインツールで配布することで、会議の拘束時間を短縮した。また、専任教員の補充を行うべく、採用人事にも力を入れ、2020年4月には助教1名を新規採用に至った。2020年も引き続き採用人事のための公募を出している。教員の研究活動の確保に向けては、国内外の学会の参加や研究助成金の応募を奨励し、国内・在外研究制度を若手・中堅の専任教員の利用を積極的に勧めた。研究と教育の融合を目指して、2019年7月26日にはGIS主催の研究会(“Feeling Well with Companion Robots”)を行い、GISの教員学内外の研究者が研究発表を行い、GISの学生や卒業生と共に議論を行った。

【2019年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

「公務」の負担の軽減、教員の研究活動時間の確保は、すべての学部での共通の課題だが、グローバル教養学部では、今回の新型コロナ・ウィルス感染拡大の前から、報告資料などの事前でのメールやオンラインツールでの配布を行い、会議の拘束時間を短縮したことは、高く評価できる。2019年度の大学評価結果総評では、「教育の目標の実現のためには、教員の研究活動の充実が必要」とも指摘されており、研究会(“Feeling Well with Companion Robots”)を主催されたことは、改善のための第一歩として評価できる。

II 自己点検・評価

1 教育課程・学習成果

【2020年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

①学生の能力育成のため、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容が適切に提供されていますか。

S A B

※教育課程の編成・実施方針との整合性の観点から、学生に提供されている教育課程・教育内容の概要を記入。

教育課程の編成・実施方針である「リベラルアーツ教育」「学際教育と専門性」「少人数教育」「ダイバーシティ教育」「学術英語教育」を充実させるため、2016年度に組んだカリキュラムを再編成し、2020年4月入学生より適用している。1年次は学生の入学時の英語力別に必修の英語スキル科目(Academic Skills Subjects)と選択の英語科目を置き、学術的な英語力を育成する。カリキュラムの根幹には30以上の学問分野にわたり200以上の科目を置き、1-3年次を通して「人文学系(Humanities)」「社会科学系(Social Sciences)」「経営科学系(Management Sciences)」の三つの領域における学際性と専門性を習得できるようにした。これらの科目には入門科目(Introductory Courses)、中級科目(Intermediate Courses)、上級科目(Advanced courses)の区分があり、学年が進むにつれ、基礎知識の学習から社会の様々な問題への知識の応用へと段階的に能力が伸ばせるようにしている。入門科目では3領域からそれぞれ6単位以上の履修を課し、一つの分野に固執しない幅広いリベラルアーツ教育を実現する。3-4年次にはゼミ(Seminar)を設け、海外大学院進学を可能にするような高度な専門知識と研究能力が習得できるようにしている。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

2020年度4月からの新カリキュラムを編成した。これまでのカリキュラムでは5科目群(Arts and Literature; Linguistics and Language Acquisition; Culture and Society; International Relations and Governance; Business and Economy)に科目を分けていたが、これらの分類がかえって学際教育を阻害するという懸念や、複数の科目群に該当する科目が存在することから、より包括的な3領域(Humanities, Social Sciences, Management Sciences)に科目を編成しなおした。これまでは指定された選択必修科目を5つの科目群からそれぞれ4単位以上履修させていたため、特定の科目に多くの学生が集中し、少人数教育の維持が危惧される場合もあった。新カリキュラムでは3領域の100番台科目からそれぞれ自由に6単位以上履修させることとし、幅広いリベラルアーツと少人数教育が実現しやすくなった。

【根拠資料】 ※カリキュラムツリー、カリキュラムマップの公開ホームページURLや掲載冊子名称等

- ・GIS Curriculum Map: (<https://www.hosei.ac.jp/gis/shokai/>)
- ・GIS Curriculum Tree:
(https://www.hosei.ac.jp/application/shibboleth_general/1515/8805/3859/2020_GIS_handbook_web20200428.pdf)

学部一 (9)

- ・2020年度GIS履修の手引き
(https://www.hosei.ac.jp/application/shibboleth_general/1515/8805/3859/2020_GIS_handbook_web20200428.pdf)
- ・GIS Syllabus 2020 (<https://syllabus.hosei.ac.jp/web/show.php?gakubueng=AR>)
- ・GISウェブサイトのCurriculumページ (<http://gis.hosei.ac.jp/cms/?courses=curriculum>)
- ・カリキュラム・ポリシー (https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/kyoiku_katei/gakubu/)

②学生の能力育成の観点からカリキュラムの順次性・体系性を確保していますか。

S A B

※カリキュラム上、どのように学生の順次的・体系的な履修(個々の授業科目の内容・方法、授業科目の位置づけ(必修・選択等)含む)への配慮が行われているか。また、教養教育と専門科目の適切な配置が行われているか、概要を記入。

2020年度の新カリキュラムでも順次性・体系性を確保している。

- ・入学時の学生の英語力により、1年次に必修となる英語スキル科目の数を設定し、英語の能力別のクラス編成を行っている。入学時の英語力が低めの学生にはより多くの必修科目を課すことで段階的に英語力を伸ばせるようにしている。
- ・100番台の入門科目は3領域からそれぞれ6単位以上の履修を課すことで、リベラルアーツ教育の基盤を作り、200番台、300番台、さらには400番台のゼミでより専門性の高い科目を履修できるようにしている。
- ・リベラルアーツ教育と学際教育の理念を実現すべく、根幹科目を「3領域にわたる30以上の分野、200以上の科目」と編成し直し、科目間の人為的な垣根を取り払った。

200番台～400番台の科目に関しては、事前の修得が必要な科目(prerequisites)をシラバスに明記している。Prerequisitesがない場合も、履修が望ましい科目をシラバスに記載している。

【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

- ・新カリキュラムにおいて、科目を5科目群から3領域に編成し直すことで、領域の枠に囚われない幅広いリベラルアーツ教育が可能となった。科目群を設定すると、その中の科目のみ集中して履修する学生が出てしまい、幅広い教育の機会が十分活かされていなかった。より包括的な3領域を設定することで、カリキュラム全体としての体系性が確保できるようになった。

旧カリキュラムでは、入学時に英語力が低めの学生は英語の必修科目を2年次まで履修する必要があったが、新カリキュラムでは必修科目は1年次で全て履修できるようにした。一方で、さらに英語力を高めたい学生のために選択科目として2年次以降の学生のみが選択履修できるProfessional Communicationを開講することになった。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・GIS Curriculum Map: (<https://www.hosei.ac.jp/gis/shokai/>)
- ・GIS Curriculum Tree:
(https://www.hosei.ac.jp/application/shibboleth_general/1515/8805/3859/2020_GIS_handbook_web20200428.pdf) 学部一 (9)
- ・2020年度GIS履修の手引き
(https://www.hosei.ac.jp/application/shibboleth_general/1515/8805/3859/2020_GIS_handbook_web20200428.pdf)
- ・GIS Syllabus 2020 (<https://syllabus.hosei.ac.jp/web/show.php?gakubueng=AR>)
- ・GISウェブサイトのCurriculumページ (<http://gis.hosei.ac.jp/cms/?courses=curriculum>)
- ・カリキュラム・ポリシー (https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/kyoiku_katei/gakubu/)

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

③幅広く深い教養および総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する教育課程が編成されていますか。	S A B
<p>※カリキュラム上、どのように教養教育等が提供されているか概要を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・GISでの教育そのものが幅広く深い教養、総合的な判断力、豊かな人間性を涵養することを目的としている。幅広く深い教養に関しては、5つの科目群を3つの領域に編成し直すことで、一分野に固執しない柔軟な履修を促している。 ・全ての科目においてアクティブ・ラーニングを徹底しており、ディスカッションやリアクション・ペーパーなどを通して総合的な判断力を伸ばしている。 ・アクティブ・ラーニングで用いられる学生同士のディスカッションやグループ・プレゼンテーションなどの共同作業は豊かな人間性も涵養している。 ・異文化・多文化の理解、ダイバーシティ教育を目的とする科目が多く設置されており、グローバル社会で通用する批判的かつ倫理的な判断力を伸ばしている。 <p>学部独自の留学制度である Overseas Academic Study Program (OAS) も幅広い教養と豊かな人間性を育成に貢献している。</p>	
<p>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>新カリキュラムにおいて、科目を5科目群から3領域に編成し直すことで、領域の枠に囚われない幅広いリベラルアーツ教育が可能となった。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・GIS Curriculum Map: (https://www.hosei.ac.jp/gis/shokai/) ・GIS Curriculum Tree: (https://www.hosei.ac.jp/application/shibboleth_general/1515/8805/3859/2020_GIS_handbook_web20200428.pdf) 学部一 (9) ・2020年度GIS履修の手引き (https://www.hosei.ac.jp/application/shibboleth_general/1515/8805/3859/2020_GIS_handbook_web20200428.pdf) ・GIS Syllabus 2020 (https://syllabus.hosei.ac.jp/web/show.php?gakubueng=AR) ・GISウェブサイトのCurriculumページ (http://gis.hosei.ac.jp/cms/?courses=curriculum) ・カリキュラム・ポリシー (https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/kyoiku_katei/gakubu/) ・OAS資料 (https://www.hosei.ac.jp/gis/ryugaku/dokuji/?auth=9abbb458a78210eb174f4bdd385bcf54) 	
④初年次教育・高大接続への配慮は適切に行われていますか。	S A B
<p>※初年次教育・高大接続への配慮に関し、どのような教育内容が学生に提供されているか概要を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初年次教育では学術的な英語スキルでも、特に手厚い指導が必要な Writing と Reading に重点を置き、これらを必修科目として設置している。入学時の英語能力に応じて4~10単位(2~6科目)を一年次に履修する。これら必修科目により、2年次には全員が学術論文を読んで理解し、論文の文体で引用をしながら論理的な文章が書けるレベルまで英語力を高める。これら必修科目は共通のシラバスと教科書を設定し、教員間で教育効果の差が生じないようにしている。Speakingに関しては学生間で能力のばらつきが大きいため、レベル別に Debate and Discussion と Presentation and Public Speaking を春と秋学期にそれぞれ設け、選択科目として履修できるようにしている。Listeningに関しては通常の授業で飛躍的に伸びることがわかっているため、特に科目は設けていない。 ・高大接続に関しては、付属校(国際高校)の高大連携科目「現代の課題と学問」にGISの教員が出張講義を行った(2019年6月14日)。また、オープンキャンパスで模擬授業(8月4日, 18日, 19日)を実施した。 	
<p>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新カリキュラムを編成するにあたり、初年次教育の見直しを行った。入学者の英語力が年々向上していること、および学生の英語スキルにばらつきがあることから、学術英語スキル科目のうち、必修科目を減らし、選択科目を増やした。Speakingスキルに関連する Debate and Discussion を必修科目から選択科目に変更し、さらに Presentation and Public Speaking を選択科目として開設した。また、これまで必修であった English Test Preparation および English Test Preparation (Advanced) も選択科目とした。これらの変更により、学生のスキルとニーズに対応した初年次教育が可能となった。 ・これまで入学時の英語レベルの低い学生は2年次まで英語スキル必修科目を履修する必要があったが、新カリキュラムではこれを1年間で全て履修できるように短縮し、「初年次教育」が1年次に修了できるようにした。代わりに2年次以降にのみ受講が可能となる英語スキル科目 (Professional Communication) を新設した。 	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・GIS Curriculum Map: (https://www.hosei.ac.jp/gis/shokai/) ・GIS Curriculum Tree: 	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

<p>(https://www.hosei.ac.jp/application/shibboleth_general/1515/8805/3859/2020_GIS_handbook_web20200428.pdf) 学部－ (9)</p> <ul style="list-style-type: none"> 2020年度GIS履修の手引き (https://www.hosei.ac.jp/application/shibboleth_general/1515/8805/3859/2020_GIS_handbook_web20200428.pdf) GIS Syllabus 2020 (https://syllabus.hosei.ac.jp/web/show.php?gakubueng=AR) GISウェブサイトのCurriculumページ (http://gis.hosei.ac.jp/cms/?courses=curriculum) カリキュラム・ポリシー (https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/kyoiku_katei/gakubu/) 付属校での出前授業の資料 		
⑤学生の国際性を涵養するための教育内容は適切に提供されていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B	
<p>※学生に提供されている国際性を涵養するための教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ディプロマポリシーに「地球全体が対処すべき諸問題について、深い教養と最先端の議論に精通し、それらを現実社会に応用できること」「民族や言語、価値観や社会制度を異にする国家・地域・コミュニティーに関する正確かつリアルタイムの知識。また、それぞれの固有文化の意義を尊重する姿勢があること」「相手の論点を的確に理解し、議論に積極的に関わることのできる高度な英語運用力を備えていること」とあるように、学部のほとんどの設置科目で学生の国際性を涵養することができるようにしている。 学部独自の留学制度 Overseas Academic Study Program (OAS)が設置されており、2019年度は8名が利用した。 派遣留学・認定留学を行う学生も多い。2019年秋には18名が派遣留学に出発した。 <p>国際ボランティア、国際インターンシップ、短期語学研修も単位認定の対象となっており、2019年度は3名が参加した。</p> <p>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 2020年度GIS履修の手引き OASパンフレット 大学案内 2019年度第9回教授会議事録、資料C-2 		
⑥学生の社会的および職業的自立を図るために必要な能力を育成するキャリア教育は適切に提供されていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B	
<p>※学生に提供されているキャリア教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> キャリア教育に関しては、International Business and Employabilityを設置している他、従来通り、総合科目として、Employability Skills I/II、Introduction to Career Design I/IIなどの乗り入れ科目を維持している。 学部にキャリア支援委員会を設け、キャリアセンターと連携を取りながら学生をサポートしている。 キャリアセンターの職員によるゼミ出張ガイダンスを複数のゼミで実施した (2019年秋学期には全10ゼミが実施)。 学部企画としてキャリア・フォーラムを12月4日と11日に開催し、内定の決まった4年生の学生複数名が2-3年生に対して経験談を語り、アドバイスをした。 卒業生が自分の勤めている企業 (Accenture) の説明会を3年生向けに実施した (11月27日)。 <p>GISの2, 3年生を対象としてBMW Group Japanとの共催で3日間 (5/8, 6/14, 6/28)のEmployer Branding Workshopを開催し、インターンシップの機会につなげた。</p> <p>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> GIS Syllabus 2020 キャリアフォーラムの案内 Accenture説明会の案内 BMW Group Japanのワークショップの案内 		
1.2 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。		
①学生の履修指導を適切に行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B	
<p>【履修指導の体制および方法】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 在学生のための学部ガイダンス (2020年4月17日電子掲示板にて告示) 新入生のための学部ガイダンス (2020年4月17日動画のメール配信) 		

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員による新入生オリエンテーション (2020年4月14日動画と資料のメール配布) ・ Google Form での質問・相談の受付 (2020年4月8日～現在) ・ FAQ ページの作成・電子掲示板での公開 (2020年4月14日～現在) ・ 自己学習支援委員による新入生向けの Zoom 個別相談 (2020年4月16, 17, 20日3回実施) ・ 自己学習支援委員による定期的な Zoom 個別相談 (2020年4月21日～毎週火曜日実施) ・ 在学生有志による新入生への Zoom 相談サポート (Virtual Common Room ; 2020年4月24日より毎週金曜日実施) ・ 自己学習支援委員による個別面談 (成績の低下や獲得単位数の少ない者に対して毎学期実施。2019年度春学期は6月7日、6月13日、6月17日、7月1日、秋学期は10月28日、10月29日、10月30日に実施した)。 	
<p>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ GIS 電子掲示板 ・ HOPPII 学生向け案内のページ ・ 自己学習支援委員による個別面談の報告 (2019年第4回教授会議事録、資料3, 2019年度第9回教授会議事録、資料C-5) 	
②学生の学習指導を適切に行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※取り組み概要を記入。</p> <p>少人数双方向教育であるため、授業内および授業の前後で学生の質問や相談を各教員が受け付ける他、専任教員はオフィスアワーを設け、必要に応じてアポイントメントによる面談も行っている。成績不振や履修単位の少ない学生に対しては毎学期、自己学習支援委員が個別に面談をし、学習指導を行っている。留学および学習のサポートは、専任教員と英語母語話者1名を含む2名の嘱託職員が行っている。</p> <p>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個別面談報告 (2019年度第4回教授会議事録、資料3, 2019年度第9回教授会議事録、資料C-5) ・ 2020年度 GIS 履修の手引き ・ GIS Syllabus 2020 	
③学生の学習時間 (予習・復習) を確保するための方策を行なっていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※取り組み概要を記入。</p> <p>少人数双方向教育の特徴を生かし、多くの科目で宿題、レポート、プレゼンテーション、ディスカッション、グループプロジェクトを課している。事前の準備 (リーディング、スライドや資料の作成など) なしでは授業に十分に参加できないことや、これらの課題が成績に反映されていることもあり、自宅での学習は必須という認識が学生にある。授業の資料やスライドは多くの教員が授業支援システムに事前にアップロードしており、予習・復習を呼び掛けている。一つの授業につき求められる学習時間の目安はシラバスおよび新入生オリエンテーションにて学生に周知している。</p> <p>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ GIS Syllabus 2020 ・ 教員による新入生オリエンテーション (スライド) 	
④教育上の目的を達成するため、効果的な授業形態の導入に取り組んでいますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>【具体的な科目名および授業形態・内容等】 ※箇条書きで記入 (取組例: PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全ての授業においてアクティブ・ラーニングを導入している (ディスカッション、グループ・プロジェクト、プレゼンテーション、校外学習など) ・ 2020年4月からのオンライン授業においても、可能な限り Zoomなどを介したディスカッションや、掲示板での意見交換を行っている。 <p>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし。</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ GIS Syllabus 2020 	
<p>⑤それぞれの授業形態（講義、語学、演習・実験等）に即して、1授業あたりの学生数が配慮されていますか。</p>	<input checked="" type="checkbox"/> S A B
<p>※どのような配慮が行われているかを記入。</p> <p>少人数双方教育を実現するために、1授業あたりの学生数には十分配慮している。専任・兼任教員に対しても1授業あたりの学生数の目安を36とするよう周知しており、多くの学生が集まってしまった場合は初回の授業でスクリーニングをすることを求めている。100番台から300番台における一般科目の平均受講者数は約21名である。学術英語スキルに関する科目とゼミの平均受講者数はさらに少ない。2020年からの新カリキュラムにおいて100番台と200番台の選択必修科目を廃止することを決定した理由の一つは、これらの授業に多くの学生が集中しないようにするためである。2020年4月からのオンライン授業においても、教員の目が受講生に行き届くよう履修者数は36という目安を専任・兼任教員示した。</p>	
<p>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>2016年から開始したカリキュラムでは100番台と200番台において、5科目群（Arts and Literature; Linguistics and Language Acquisition; Culture and Society; International Relations and Governance; Business and Economy）から選択必修科目を設け、各レベルの各科目群から2単位以上履修することを求めている。2020年度からの新カリキュラムでは、特定の選択必修科目を定めずに、3領域（Humanities, Social Sciences, Management Sciences）の100番台の中からそれぞれ6単位以上履修することとした。これにより学生に幅広い教養を促しつつ、特定の授業への学生の集中を緩和できると期待している。また300, 400番台の卒業所要単位数が36であったのを新カリキュラムでは32（ゼミ16単位を含む）に減らし、上級科目での混雑を緩和し、少人数による深い学習ができるようにした。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Teaching in GIS（兼任講師全員に配布・送付している学部作成のパンフレット） ・ 2020年度GIS履修の手引き ・ COVID19-GIS measures Update 6.0（2020年4月27日配信） 	
<p>1.3 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。</p>	
<p>①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。</p>	<input type="checkbox"/> S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>【確認体制および方法】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全学部の成績分布表 ・ 成績調査申請制度 ・ OAS委員会、派遣/認定留学単位認定作業委員による本学の評価基準に基づく審査 	
<p>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2019年度春学期GPCA集計表（2019年度第20回教授会議事録、資料B-1） ・ 2019年度秋学期期末「学生による授業改善アンケート」の集計結果（2019年度第20回教授会議事録、資料B-1） ・ 採点訂正申請書（2019年度第13回教授会議事録・資料D-2） ・ OAS、派遣/認定留学単位認定（2019年度第1回教授会議事録・資料36、第2回教授会議事録・資料17、第3回教授会議事録・資料26、第4回教授会議事録・資料17、第5回教授会議事録・資料11、第6回教授会議事録・資料18、第7回教授会議事録・資料20、第11回教授会議事録・資料D-9、第12回教授会議事録・資料D-9・10、第14回教授会議事録・資料D-4） 	
<p>②厳格な成績評価を行うための方策を行っていますか。</p>	<input checked="" type="checkbox"/> S A B
<p>※取り組み概要を記入。</p> <p>シラバスの第三者チェックを行う際に、成績評価の基準について確認している。また、GPCAを活用し、成績分布に偏りがないか確認している。特に共通シラバスを展開する英語スキル科目の偏在性については教授会にて報告し議論を行っている。偏りが生じている科目を担当している教員にはカリキュラム委員長が面談を行い、是正をお願いしている。</p>	
<p>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>アセスメント・ポリシーを策定し、各学年における学修成果を明確化した。また、GPCAを活用し成績分布の偏在性について確認した。特に共通シラバスを展開する英語スキル科目の偏在性については教授会にて報告し議論を行った。助教を含む全ての専任教員がFD Workshopに参加し、成績評価に関する意見交換を行った（2020年10月26日）。成績の偏りが生じた</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

教員に対しては、カリキュラム委員長が事情を伺い、是正をお願いした。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・2020年10月16日 FD Workshop 議事録 ・アセスメント・ポリシー	
③学生の就職・進学状況を学部（学科）単位で把握していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
※データの把握主体・把握方法・データの種類等を記入。 キャリアセンターから卒業生の進路に関するデータの提供を受け、毎年動向を把握している。また、学位交付時に行う卒業生アンケートから進路に関するデータを受け、キャリア支援委員とPR委員を中心に毎年の卒業生の進路を把握している。2年ごとに開催するHome Coming（同窓会）においても卒業生のその後の進路についてアンケートを行っている。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・卒業生アンケート ・卒業生データ提供申請書	
1.4 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	
①成績分布、進級などの状況を学部（学科）単位で把握していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
※データの把握主体・把握方法・データの種類等を記入。 執行部とカリキュラム委員会で検証した上で、教授会で全教員に周知している。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・進級・卒業判定名簿（2019年度第12回教授会議事録、資料D-5）	
②「学修成果の把握に関する方針（アセスメント・ポリシー）」に基づき、分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定または取り組みが行われていますか。	S <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
※取り組みの概要を記入。 アセスメント・ポリシーにおいて、各学年の学習成果を測定するための指標を明文化し、これに基づいた成績評価が適切に行われるかをシラバスの第三者チェックで確認している。成績評価は期末試験だけでなく、随時行われる小テストやレポート、口頭発表、授業への貢献度なども考慮するよう、兼任講師を含む全教員に指導している。	
【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。 アセスメント・ポリシーの策定。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・GIS アセスメント・ポリシー ・GIS Syllabus 2020 ・Information for Instructors（兼任講師全員に配布・送付している学部作成のパンフレット）	
③「学修成果の把握に関する方針（アセスメント・ポリシー）」に基づき、具体的な学習成果を把握・評価するための方法を導入または取り組みが行われていますか。	S <input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
※取り組みの概要を記入（取り組み例：アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学修成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用等）。 Curriculum & FD 委員会では、定期的に全学生の履修登録状況、履修単位数、GPAの確認を行っている。また、大学評価室が行っている保護者アンケート、1年生アンケートなどの調査結果から、ディプロマポリシーに掲げている「問題発見・解決能力」、「学術知識の応用力」、「異文化・多文化の理解」、「英語コミュニケーション能力」が身についたと評価している回答者の割合を毎年確認している。	
【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。 特になし。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・全学生の履修登録状況、履修単位数、GPAの確認（第4回教授会議事録資料3、第9回教授会議事録資料C-5） ・2019年度「1年生アンケート」・「保護者アンケート」の集計結果（2020年度第1回教授会議事録、資料B-1a）	
④学習成果を可視化していますか。	S <input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
※取り組みの概要を記入。取り組み例：専門演習における論文集や報告書の作成、統一テストの実施、学生ポートフォリオ等。 ・全学年のGPA、履修単位数、進級・留級の状態等の一覧表を作成し、教授会で共有している。 ・英語力に関しては、学部実施のTOEFL-ITPをはじめ、学生各自が任意で受験するTOEFL-iBTやIELTS、TOEICの結果も報告させ、データ化している。	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<p>【2019年に変更や改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。 特になし。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・進級・卒業判定名簿（2019年度第12回教授会議事録、資料D-5）</p>	
<p>1.5 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みも行っているか。</p>	
<p>①学習成果を定期的に検証し、その結果をもとに教育課程およびその内容、方法の改善に向けた取り組みを行っていますか。</p>	<p>S A B</p>
<p>※検証体制および方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。 ・2016年からのカリキュラムにおける問題点をCurriculum & FD委員会と教授会で確認し、2020年度からの新カリキュラムの策定に至った。 ・全学生の履修登録状況、履修単位数、GPAをCurriculum & FD委員会と教授会で確認し、それを基に採用教員の担当科目決定、自己学習支援委員による個別面談を行っている。 ・大学評価室による各種アンケート調査、卒業後の進路調査の結果を教授会で共有している。 ・学生モニター制度（2019年11月8日実施）やLunch with the Dean（2019年11月12日開催）などを通して教育課程や学修成果に関する学生の意見を聞き、教授会で共有している。</p>	
<p>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。 ・2016年からのカリキュラムにおける問題点をCurriculum & FD委員会と教授会で確認し、2020年度からの新カリキュラムの策定に至った。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・カリキュラム委員会開催日程一覧（第1回カリキュラム委員会議事録） ・進級・卒業判定名簿（2019年度第12回教授会議事録、資料D-5） ・学生モニター資料（2019年11月8日実施） ・Lunch with the Dean（2019年11月12日開催）</p>	
<p>②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。</p>	<p>S A B</p>
<p>※利用方法を記入。 学部長が教員全員に対する学生アンケートに目を通し、問題のある教員には面談し、事情説明や改善を求めている。</p>	
<p>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。 特になし。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・学生による授業改善アンケート</p>	

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
<p>・2019年度はキャリアフォーラムを2回開催したが、参加者が少なかった（12/4は参加者ゼロ、12/14は15名）。これを受けて第10回教授会にて、改善案を議論した。2020年度は開催時期や周知方法、対象学年を広げるなどの対策を講じ、より多くの参加者を集められるようにする。</p> <p>・少人数双方向教育を可能にするため、毎学期、一部の人気科目において学生の選抜が行われる。履修者数が多すぎると教育の質に影響があるため、選抜をせざるを得ないが、取りたい科目が取れないという学生からの不満の声もある。2020年度からの新カリキュラムでは選択必修科目を特定せず、また人気科目はコマ数を増やすことで学生の一部の科目への集中を緩和する方針である。選抜の実態（選抜方法の公正性、競争率）なども確認する必要がある。</p>	<p>1.1 ⑥</p> <p>1.2 ⑤</p>

【この基準の大学評価】

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

グローバル教養学部では、2020年度4月からの新カリキュラムを編成した。これまでのカリキュラムでは5科目群に科目を分けていたが、より包括的な3領域（Humanities, Social Sciences, Management Sciences）に科目を編成しなおした。これまでは指定された選択必修科目を5つの科目群からそれぞれ4単位以上履修させていたが、特定の分類や科目に多くの学生が集中し、少人数教育の維持が危惧される場合があったり、多くの分類がかえって学際教育を阻害するという懸念があったが、新カリキュラムでは3領域の100番台科目からそれぞれ6単位以上履修させることとしたことにより、「広いリベラルアーツと少人数教育が実現しやすく」なるように目指している。勿論、「複数の科目群にまたがる領域」という課題の解決には科目群／領域の数を減らすことが有効であると考えられ、また特定の科目群または領域に集中した履修を防ぐことにより少人数教育を維持する効果も期待できる。

一方で、新カリキュラムの有効性については、今後各種学生アンケートや学生の成績等を注視していくことが望まれる。いずれにせよ、貴学部は非常に特徴的な教育を実践している学部であり、カリキュラム改革による教育研究の一層の向上を期待したい。

2 教員・教員組織

【2020年5月時点の点検・評価】

2.1 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。

①学部（学科）内のFD活動は適切に行なわれていますか。

S A B

【FD活動を行うための体制】※箇条書きで記入。

- ・Curriculum & FD委員会（教授会執行部を含む）

【2019年度のFD活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】※箇条書きで記入。

- ・2019年7月10日，学部長室，授業参観報告，専任教員全員（13名）
- ・2019年11月20日，学部長室，授業参観報告，成績評価の基準についての意見交換，専任教員全員（13名）

【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・FD Workshop 開催通知書
- ・授業参観報告書（春・秋学期）

②研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るための方策を講じていますか。

S A B

※取り組みの概要を記入。

2019年7月26日にはGIS主催の研究会“Feeling Well with Companion Robots”を開催した。
2019年11月16日千代田区後援でシンポジウム『グローバル人材と「共通語としての英語」GIS（グローバル教養学部）の視点』を開催（11/16）した

【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・2019年度第5回GIS教授会議事録，資料5
- ・2019年度第8回GIS教授会議事録，資料5，2019年度第9回GIS教授会議事録
- ・“Feeling Well with Companion Robots”研究会の案内
- ・グローバル人材と「共通語としての英語」GIS（グローバル教養学部）の視点』の案内

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

【この基準の大学評価】

グローバル教養学部では、2019年度に2回のCurriculum & FD委員会が開催され、授業参観報告や成績評価基準についての意見交換がなされた。

III 2019年度中期目標・年度目標達成状況報告書

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】	
1	中期目標	学部入学定員の大幅増により生じた現行カリキュラム上の問題点を解消し、学部の理念である国際基準の教育に相応しい新カリキュラムを策定・施行する。	
	年度目標	現行カリキュラムにおける「卒業要件」、「科目群と学際性」、「EMI（教授言語としての英語）」、「CLIL（内容・言語統合型学習）」に関する課題を解決しうる新カリキュラムの編成に着手する。	
	達成指標	現行のカリキュラムの課題解決と、学部の特徴である「リベラルアーツ教育」、「多分野性と学際性」、「EMI」、「少人数制による双方向授業」の質的向上を図ることを可能とする新カリキュラムの詳細設計、具体的な科目、担当教員について決定する。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	S
		理由	十分な時間を確保し、現カリキュラムにおける課題解決及び「リベラルアーツ教育」、「多分野性と学際性」、「EMI」、「少人数制による双方向授業」の質的向上を図ることを可能とするカリキュラムの詳細設計、具体的な科目、担当教員について、カリキュラム委員会（第1回～第17回）及び教授会（第1回～第10回）で丁寧に議論し、第11回の教授会で最終決定した。
		改善策	今後は、既存カリキュラムと新規カリキュラムの適切かつ円滑な運用及び兼任講師に対する説明会（及び欠席者に対する個別対応）や各コーディネーターを通じた周知徹底が必要。
質保証委員会による点検・評価			
所見	新カリキュラムの編成は大きな成果であった。昨年度に引き続きカリキュラム委員会を18回開催し、現カリキュラムの課題の把握と解決に関して十分な議論を行い、新カリキュラムを編成した。学部の4つの特徴の質的向上を目指してカリキュラムを設計し、科目および担当教員を決定した。		
改善のための提言	新カリキュラムのスタートにあたり、旧カリキュラムの学生に不利益が生じないよう配慮と運用が必要となろう。また新規採用の兼任講師への適切な説明が必要となる。		
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】	
2	中期目標	①「グローバル社会の諸問題の解決に資する人材の育成」という当学部の理念達成に向けて、より専門性の高い学際的知識を滋養する教育方法を導入する。 ② 履修希望者の特定科目への集中と入学時における英語力の差の拡大に対して、有効な対策を検討する。	
	年度目標	①-1 既存科目の講義内容の見直し、適切なレベルへの再配置を検討するとともに、プレゼンテーション、クラス・ディスカッション、教員との対話型授業など、少人数制による双方向教育のさらなる拡充を図る。 ①-2 ゼミ研究における質的向上を目指す。 ②-1 特定科目への履修者集中の原因を突き止め、新カリキュラムに活かす。 ②-2 TOEFL (ITP) のスコアや各講義から英語力が低い学生を把握し個別面談を実施する等、学部として英語力の底上げを図る。	
	達成指標	①-1 カリキュラム委員会等で入念に検討し、その結果を新カリキュラム(2020年度)に反映させる。 ①-2 各ゼミにおける質的向上のための工夫・取り組みを把握し、教授会にて共有する。 ②-1 複数年にわたり履修者が集中する科目を検出し、授業テーマや時間割配置との関連性を調べるとともに、新カリキュラムの詳細設計に反映させる。 ②-2 TOEFL (ITP) スコアをリスト化し、各講義において英語力が低い学生を教授会で共有	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

		するとともに当該学生には ERP 科目の受講、短期語学プログラムへの参加を促す。また、学術英語スキル科目で英語力が比較的低いクラスを担当する教員と情報共有し、その結果を新カリキュラムに反映させる。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	①-1 現行カリキュラムにおける諸課題とその解決法を念頭においた新カリキュラムを策定することが出来た。 ①-2 各ゼミにおける工夫・取り組みについて教授会で共有した。 ②-1 新カリキュラムの策定にあたり、特定科目への履修者集中の主原因であった選択必修科目の大幅な削減を行い、各科目における履修者数の平準化を目指した。 ②-2 学生の TOEFL (ITP) スコアは教授会で共有されたが、今年度は英語力が低いことを主原因として成績が低迷している学生はいなかったため、ERP 科目の受講や短期留学プログラムへの参加を促さなかった (入学時の履修相談において英語力の不安を吐露した学生には奨励)。また、比較的英語力が低いクラスを担当する教員から当該クラスに所属する学生の英語力、学修意欲・態度等について、各コーディネーターを通して情報共有し、その結果を新カリキュラムに反映した。
	改善策	①-1、②-1 既存カリキュラムと新規カリキュラムの適切かつ円滑な運用及び兼任講師に対する説明会 (及び欠席者に対する個別対応) や各コーディネーターを通じた周知徹底が必要。 ①-2 引き続き各ゼミにおける工夫・取り組みについて教授会で共有するとともに、今後、ゼミ論のタイトルやその他成果物の教授会での共有や公表等を検討。 ②-2 入学時の英語力が全体として高くなってきているが、毎年一定数、英語力が低い学生 (一般入試や指定校推薦等経由で入学した学生) がいることもふまえ、引き続き彼らに対するケアを行うとともに入試制度の更なる改変を検討。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	教育課程・学習成果の目標はおおむね達成されている。①-1、①-2、②-1、②-2 学部の理念達成のための教育方法改善、および学生の英語力向上に関して、問題点を把握して具体的方策を新カリキュラムに反映することができた。英語力の低い学生にも教授会全体で適切に対応できた。
改善のための提言	新カリキュラムの円滑な運営のために、上記と同様の措置が必要となる。	
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
3	中期目標	①大幅な入学定員増の下で、4年間の学習成果を適切に測る評価指標を検討する。 ②学部の理念を反映した教育成果の可視化を強化する。
	年度目標	①4年間の学習成果を適切に測る評価指標を検討する。 ②大学案内、学部パンフレット、学部ウェブサイト (英語・日本語)、SNS で教育成果の公表を目指す。
	達成指標	①評価指標のリスト化を行い、各指標の適切性を評価する。 ②大学案内、学部パンフレット、学部ウェブサイト (英語・日本語)、SNS において、進路先 (就職・大学院進学) のグローバル化に関するページの充実化を図る。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	①アセスメントポリシーを策定し、各学年における学修成果を明確化した。また、GPCA を活用し成績分布の偏在性について確認した。特に共通シラバスを展開する英語スキル科目の偏在性については教授会にて報告し議論を行った。 ②PR 委員会を中心に作成している学部パンフレット (2021 年度向け) では、卒業後の進路 (就職・海外大学院進学) だけでなく、将来、グローバルに活躍するためのキャリアパスも明示した。また本学部で習得可能な学術知識及びスキルについての説明を含む動画を作成し学部

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。

		ウェブサイトにて公開した。	
	改善策	①アセスメントポリシーの適切な運用と運用上の課題の洗い出し。 ②学部ウェブサイト及び学部が運用する SNS による更なる学修成果の公表。	
	質保証委員会による点検・評価		
	所見	学習成果の測定と可視化の向上は大きな成果であった。①学習成果を適切に測りその結果を教授会で共有することができた。②動画作成とパンフレットの充実により教育成果の可視化が向上した。	
	改善のための提言	教育成果の可視化充実のため、卒業生の情報収集を長期的継続的に行うことが有効であろう。	
No	評価基準	学生の受け入れ	
4	中期目標	①中等教育のグローバル化を踏まえて、多様な教育歴を考慮した入試方法を常に検討する。 ②学部に相応しい英語能力試験とそのスコアを検証する。	
	年度目標	①2020 年度入試での導入に向けて、高い英語力(4 技能)と確かな知識・知的能力の両方を兼ね備えた学生をより多く受け入れることができる入試方法を検討する。 ②入学者が保有する各種英語試験と入学後に実施される TOFL (ITP) スコアを比較分析し、学部が真に保証する英語能力試験とスコアを再検討する。	
	達成指標	①検討結果に基づき、自己推薦特別入試 (12 月入試、秋学期入試) の質的向上、一般入試 (T 入試、英語外部入試) の改変を行う。 ②入学者が保有する各種英語試験と入学後に実施される TOFL (ITP) スコアの比較表を作成し分析する。その分析結果をもとに上記入試制度の改変を行う。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	S
		理由	①自己推薦特別入試(12 月入試) における S 基準の入学条件の追加 (SAT の導入) 及び A 基準の筆記試験の改変、一般入試における T 入試と英語外部入試の統合 (T 入試の廃止)、センター入試における出願資格 (英語外部試験) の設定を行った。 ②①における各入試の改変においては、②の分析結果を有効活用しただけでなく、これまでの入学者データも活用した。
		改善策	入試改変による志願者数の増減、学生の質 (英語力、知識・知的能力、学修意欲等) の変化に関する分析と評価。
		質保証委員会による点検・評価	
		所見	学部の理念に相応しい入試改革が適切に行われ年度目標を達成した。①学力と英語力を兼ね備えた学生受け入れのために SAT の導入など入試制度を改革した。②各種英語試験の比較研究を不断に行なっている。
		改善のための提言	初等、中等教育の英語教育の変化、大学入学共通テストへの移行、志願者 (海外も含む) の動向と英語力の変化などを研究し、入試制度改革を継続する必要がある。
No	評価基準	教員・教員組織	
5	中期目標	①学部教員の年齢構成や教育分野の多様性、英語による教育・実務能力に最大限配慮しつつ、専任採用人事を続ける。 ②世界基準の教育を提供するとの学部理念から、研究業績と英語力を重視した兼任講師の採用を行う。	
	年度目標	①2018 年度、研究分野・業績の点で補充に至らなかった 1 名の助教枠に関する新規採用と 2018 年度末に退職した専任教員 1 名の補充を図る。 ②研究業績を精査の上、複数名の面接による英語力チェックを経た兼任講師の採用を図る。	
	達成指標	①学部の理念に相応しい教員を、春学期中に JREC-IN 等を通して国際公募する。 ②十分な業績と英語力を持つ兼任講師を秋学期終了時まで確保する。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
	理由	①JREC-IN 等を通して国際公募を行った結果、助教 1 名を採用することが出来た。	

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。

			②2020年度からの新カリキュラム運用に伴い、十分な業績と英語力を持つ兼任講師を確保することが出来た。
	改善策		①国際公募を通じたより幅広い周知による助教2名の新規採用。 ②未開講科目を担当する兼任講師の探索と確保。
		質保証委員会による点検・評価	
	所見		国際公募により学部の教育に相応しい助教（一名）と新カリキュラムの科目を担当する兼任講師を採用することができた。
	改善のための提言		学部教育充実のため国際公募により助教（2名）を新規採用する必要がある。
No	評価基準	学生支援	
6	中期目標	成績不良者や英語力の低い学生に対して、学部全体で支援と指導を行う。	
	年度目標	教員による入学オリエンテーション時の個別履修相談、修得単位数及び累積 GPA が低い学生への個別面談を継続する。	
	達成指標	「個別履修相談」と「個別面談」の人数と相談・面談内容を集計・分析し、支援、指導方法を策定する。	
		教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A	
	理由	入学オリエンテーション時に20名の1年生から個別履修相談があった。また、累積 GPA が低い学生13名に対しては自己学習支援委員が面談を行い、その結果は教授会で共有された。個別履修相談では自身の英語力に対する不安が主であり、低い GPA の原因の多くは英語力というより何らかの環境の変化による学習意欲の減退によるものが多いことが分かった。	
	改善策	入学時における学生の英語力は年々高まっており低い英語力を起因とする相談は減少していることをふまえ、今後の学生相談の支援・指導方法の再検討が必要。	
		質保証委員会による点検・評価	
	所見	GPA の低い学生や英語力に問題のある学生への対策は適切に制度化され実施されている。個別履修相談対象者の傾向把握は今後の学生支援の基礎になるものと期待される。	
	改善のための提言	英語コミュニケーション力の問題は学生の自習方法の指導などを含めて検討する必要がある。	
No	評価基準	社会連携・社会貢献	
7	中期目標	学部の理念と特色を生かした社会貢献・社会連携を推進する。	
	年度目標	学際的なグローバル研究と英語イマージョン教育を基調とした連携・貢献の可能性を関係諸機関と折衝し推進する。	
	達成指標	関係諸機関と連携し、社会に資する活動を企画・立案し実行する。	
		教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S	
	理由	・GISの2、3年生を対象としてBMW Group Japanとの共催で3日間（5/8、6/14、6/28）のEmployer Branding Workshopを開催した。 ・千代田区後援でシンポジウム『グローバル人材と「共通語としての英語」GIS（グローバル教養学部）の視点』を開催（11/16）した。	
	改善策	産官学連携を中心とした継続的な企画の立案と実行。	
		質保証委員会による点検・評価	
	所見	学部学生と外資系企業とのワークショップや千代田区後援のシンポジウム開催は、社会貢献・社会連携の一環として有意義なものであり高く評価される。	
	改善のための提言	小規模学部が社会貢献・社会連携の活動を継続的に行うことは容易ではないが、今後も学部の特色を生かした取り組みを期待したい。	
【重点目標】			
最も重要かつ即応性が必要な年度目標は、学際的科目の位置づけと対応する新規採用人事（研究分野・業績の点で補充に至らなかった1名の助教枠に関する新規採用と2018年度末で退職した教員の補充〈助教2名〉、合計助教3名）である。専門			

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

分野の研究業績だけでなく、学部教員の年齢構成、教育分野の多様性、英語による教育・実務能力に最大限配慮し、学部理念に相応しい教員を適切なプロセス（人事委員会の設置等）を経て国際公募し、採用する。

【年度目標達成状況総括】

2019年度は主に、1)2020年度からの新カリキュラムの運用に向けたカリキュラムの策定、助教、兼任講師の採用、2)入試改革、3)教育の質的保証、4)社会貢献・社会連携、等について取り組み、概ね目標を達成することができた。来年度は学部教育の更なる充実のため、特に新旧カリキュラムの適切な運用と助教枠(2名)の新規採用が必要となる。

【2019年度目標の達成状況に関する大学評価】

グローバル教養学部では、様々な具体的な問題点を発見し、教育課程・学習成果での中期目標「学部入学定員の大幅増により生じた現行カリキュラム上の問題点を解消し、それらを解決するために、学部の理念である国際基準の教育に相応しい新カリキュラムを策定・施行する」や、学生の受け入れの「・中等教育のグローバル化を踏まえて、多様な教育歴を考慮した入試方法を常に検討する ・学部に対応しい英語能力試験とそのスコアを検証する」といった目標を設定し十分な時間をかけて検討され、新カリキュラム策定や入試改革の実施、学習成果の公表など、多く達成指標や具体的な目標を達成したことは高く評価できる。

一方で、年度末報告における、教授会執行部ならびに質保証委員会による点検・評価の内容も具体的で十分な記述内容ではあるものの、両者とも同じような記述が多い。小さな学部内で難しい点もあると思うが、教授会執行部と質保証委員会の（学部内での）点検・評価においてより率直な意見交換が行われることを望みたい。

また、今後は、新カリキュラムのどの部分がどの問題点を解決するはずなのかを、貴学部の理念の重要な要素である「学際性」という概念をどう捉えているのかとともに整理いただきながら、目標に落とし込んでいく作業を継続的に進めていくことが望まれる。

IV 2020年度中期目標・年度目標

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
1	中期目標	学部入学定員の大幅増により生じた現行カリキュラム上の問題点を解消し、学部の理念である国際基準の教育に相応しい新カリキュラムを策定・施行する。
	年度目標	本年度にスタートさせた新カリキュラムの適切かつ円滑な運用を図る。
	達成指標	新カリキュラムにおける履修状況を確認する。一年生が受講する科目の担当教員や学生モニターから新カリキュラムに対する現場の声を拾う
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
2	中期目標	①「グローバル社会の諸問題の解決に資する人材の育成」という当学部の理念達成に向けて、より専門性の高い学際的知識を滋養する教育方法を導入する。 ② 履修希望者の特定科目への集中と入学時における英語力の差の拡大に対して、有効な対策を検討する。
	年度目標	①少人数双方向型教育を新カリキュラムの全ての科目において実施する。 ②-1 履修希望者数の多い科目を洗い出し、少人数教育維持のため、公正なセレクションができるよう対策を取る。 ②-2 入学時に英語力が低めな学生に対して、選択英語スキル科目の履修を促し、英語力の底上げを行う。
	達成指標	①少人数双方向型教育を実施している科目数を把握する。 ②-1 科目ごとの履修希望者数と最終受講者数、セレクション方法について把握し、教員と情報共有する。 ②-2 必修英語スキル科目の担当教員と連絡を取り合い、英語力が低めの学生には選択科目の履修指導を行う。
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
3	中期目標	①大幅な入学定員増の下で、4年間の学習成果を適切に測る評価指標を検討する。 ②学部の理念を反映した教育成果の可視化を強化する。
	年度目標	①アセスメント・ポリシーに則った成績評価や単位付与を徹底する。 ②学部パンフレット、ウェブサイト、SNS等で引き続き教育成果を公表し、これらの認知度を

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

		高める。
	達成指標	①アセスメント・ポリシーを兼任教員に周知し、シラバスに反映されているかを確認する。 ②教育成果の認知度について把握する。
No	評価基準	学生の受け入れ
4	中期目標	①中等教育のグローバル化を踏まえて、多様な教育歴を考慮した入試方法を常に検討する。 ②学部に対応しい英語能力試験とそのスコアを検証する。
	年度目標	①各入試経路の入学者数の安定を図る。 ②各入試経路における入学者の英語力と入学後の適正について検討する。
	達成指標	①各入試経路の入学実績を把握する。 ②ここ数年の学生の入学時の英語能力試験のスコアと入学後の GPA との関連について分析する。
No	評価基準	教員・教員組織
5	中期目標	①学部教員の年齢構成や教育分野の多様性、英語による教育・実務能力に最大限配慮しつつ、専任採用人事を続ける。 ②世界基準の教育を提供するとの学部理念から、研究業績と英語力を重視した兼任講師の採用を行う。
	年度目標	①2019年の人事で採用に至らなかった2名の助教枠について専任教員の採用人事を継続する。 ②研究業績と英語力を兼ね備えた兼任講師の採用を継続する。
	達成指標	①専任教員の募集と審査を行う。 ②新カリキュラムにおける新規科目の担当教員を決定する。
No	評価基準	学生支援
6	中期目標	成績不良者や英語力の低い学生に対して、学部全体で支援と指導を行う。
	年度目標	修得単位数及び累積 GPA が低い学生への個別面談を継続する。また、学習面以外の支援が必要な学生を他の専門部署（学生相談室・学生障がい支援室）と繋げられるようリーチアウトする。
	達成指標	「個別面談」の実施回数を把握する。教員同士での情報共有の場を設け、支援が必要な学生にリーチアウトできるような仕組みを検討する。
No	評価基準	社会連携・社会貢献
7	中期目標	学部の理念と特色を生かした社会貢献・社会連携を推進する。
	年度目標	専任・兼任教員と在学生在が共に参加できる研究会等を企画し実現する。
	達成指標	研究会・ワークショップなどの開催。
<p>【重点目標】 新カリキュラムを充実させ、また学部の公務をより円滑に進めるために、2019年度に採用に至らなかった助教枠2名の採用人事を行う。学部の理念に理解があり、研究業績・教育歴・語学力（日本語と英語）を兼ね備えた人材を国際公募にて募る。</p> <p>【目標を達成するための施策等】 一度の公募で適任者が見つけれない可能性があることを考慮して、夏までに一回公募をし、場合によっては秋にももう一度公募を行う。</p>		

【2020年度中期目標・年度目標に関する大学評価】

貴学部の年度目標と達成指標は比較的具体的であり、年度末報告の際に達成についての自己評価がし易い。2019年度の年度目標の多くについて達成したため、2020年度の年度目標や指標は、ほとんどの評価項目について新たなものに入れ替わっている。ルーチン業務としてみた場合、執筆者の負担も大きいと思われる、学部として適切かつ誠実な自己点検作業を行っているとは評価できる。

一方で、「達成指標」は、「目標が達成できているかを測る物差し」であるとするならば、一部の評価基準において、2020年度の「年度目標」と「達成指標」がうまく合っていない記述があったので、これらについては今後の一層の精査が望まれる。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

【大学評価総評】

グローバル教養学部では、「広いリベラルアーツと少人数教育が実現しやすく」することを目指して、2020年度4月からの新カリキュラムを導入したことは高く評価できる。今後各種学生アンケートや学生の成績等にて、その有効性を注視していくことが望まれる。

これ以外にも、貴学部では、様々な具体的な課題を発見し、それらを解決するために、入試改革や学部に対応しい学習成果の公表など、多く達成指標や具体的な目標を達成したことは高く評価できる。また、貴学部の年度目標と達成指標は比較的具体的であり、学部として適切かつ誠実な自己点検作業を行っているとは評価できる。

一方で、年度末報告における教授会執行部と質保証委員会の（学部内での）点検・評価においてより率直な意見交換が望まれる点や、一部の「年度目標」と「達成指標」でうまく合っていない箇所もあるため、一層の検討をお願いしたい。

貴学部は全ての授業を英語で行うという国際性を志向した学部であり、志願者の偏差値をみてもそのことは対外的に高く評価されていることがわかる。その一方で、世間一般の認識では、貴学部における「リベラルアーツ」と「学際性」の違いや、「リベラルアーツ」と「専門教育」の概念の捉え方も分かりにくいことも確かである。学部としての Mission のさらなる具体化・明確化とその対外的な発信を期待したい。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。